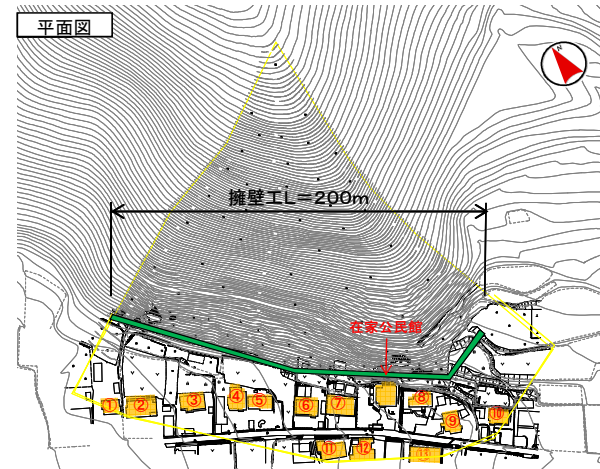


(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		急傾斜地崩壊対策等事業		路河川名等		在家	
事業毎の通番		6		市町村名		長野市	
事業目的		当箇所は、長野市若穂保科の在家地区に位置し、土砂災害防止法に基づく特別警戒区域及び警戒区域に指定されている。斜面は、山地状地形を呈し、斜面高は125m程度、斜面傾斜角38°程度である。斜面には、転石が確認され、一部落石も発生していることから、急傾斜地崩壊対策に対する地元要望は強い。斜面下には在家公民館と13件の人家があることから、早急に対策を講じ民生の安定を図るものである。		箇所名(ふりがな)		在家(ざいけ)	
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等		急傾斜地法	
関連する事業、計画等							
保全対象・範囲 受益対象・範囲		保全対象人家:13戸 公共施設:在家公民館、市道					
着手年度		H27		事業期間		3年間	
完成年度(見込み)		H29		費用対効果		7.9	
全体事業内容(主な工種)		擁壁工 L=200m		事業費(千円)		100,000	
年度事業内容(主な工種)		・地質調査 1式 ・地形測量 1式 ・詳細設計 1式		財源内訳(千円)		47,500 5,000 42,750 4,750	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的) 土砂災害特別警戒区域指定の解除					
		間接的効果(定量的・定性的)					
必要性		○保全人家戸数: 13戸 ○保全公共施設: 在家公民館、市道 ○災害時要援護者施設: なし ○避難場所、避難路: なし					評価
重要性		○過去の災害履歴: 災害履歴地 ○交通遮断による地域経済への影響: 中(市道須金音坂線) ○地域防災計画上の位置付け: なし					評価
効率性		○費用対効果(B/C): 7.85 ○事業期間: 3年(H27~H29) ○工法等の比較検討: なし					評価
緊急性		○斜面の高さ: 平均高さ100m ○斜面平均勾配: 35° ○斜面地質: 礫混じり砂質土 ○オーバーハング、遷急線、谷地形、凸地形: なし ○斜面植生: 普通 ○保全対象の位置: がけ下(人家13戸、公民館1戸)					評価
計画熟度		○事業情報の共有: 関係者以外にも周知 ○地域要望: 協力的である ○地域合意: 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働: 住民独自の取り組みがある(住民が独自に斜面上部の調査を実施)					評価
部意見		保全対象に人家13戸、在家公民館がある。斜面は風化による浸食が進んでおり、不安定な浮石も見られ、早期に対策を行う必要がある。		行政改革課意見		保全対象に人家、公共施設があり、斜面には転石が確認されることから、必要性は認められる。	
				評価結果		総合評価	
				○		B	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、土砂災害防止法に基づく特別警戒区域及び警戒区域に指定されている。斜面は、山地状地形を呈し、斜面高は125m程度、斜面傾斜角38°程度である。斜面下には一部擁壁工がされているが、その上部斜面には、転石が確認され、一部落石も発生している。斜面下には在家公民館と13軒の人家があることから、急傾斜地崩壊危険区域の指定を行い、斜面崩壊対策工として擁壁工を実施したい。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成25年7月9日の若穂地区全体の現地調査時に現地調査を実施し、対策工を要望された。平成25年8月27日に在家区役員とともに斜面上部の調査を実施した。
③事業説明等の経緯	平成20年1月土砂法説明会開催。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	詳細設計時に斜面の立木は極力存置する工法を検討の予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	地元は対策に対しての関心が高いため、避難体制の整備及び施設の維持管理について、今後の地元説明会で積極的な関与を促したい。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度  
北緯: N 138° 15' 27" 43  
東経: E 36° 37' 00" 44